

「方言バイリンガル」

大分県立竹田高等学校 2 年 菅 朱李

「なあ、方言、つこうちゃん？」みなさん、方言を使っていますか？物心ついた時から当たり前に話してきた愛着ある言葉。それが方言です。北から南まで全国にはその土地らしい変化に富んだ方言がたくさんあります。一方で、方言は地域限定で共通語より格下の感じがして気になっていました。以前読んだ物語の中でも、転校生が方言を使ったことで馬鹿にされ、いじめられるという場面があり、理不尽だなあと思ったことがあります。また、どこでも方言を話すのは田舎丸出しで恥ずかしいと友だちが言っていて、私もそうなのかな、と思っていました。しかし、ある出来事から私の考えは変わりました。東京の浅草で買い物をしていた時のことです。店員さんとのやりとりの中で、私は、無意識に方言を使ってしまったのでしょう。「遠くから来たの？」と聞かれました。ああ、しまった！と思いながら「大分です」と答えた私に、店員さんは、「やっぱり！そんな感じがしたの。いいなあ、私も大分に行ってみたいなあ」と言ってくれたのです。そうか！方言は個性であって、自分の大切なアイデンティティーの一つなのだ。以来、他の地域の方言にも興味を持つようになりました。大分に移住して20年以上たつのに関西弁バリバリの歯医者さん。方言のラインのスタンプ。この言葉をそれぞれの地方の方言で言ったらどうなるのか調べると面白くてしかたありません。違いがあることが魅力であり共通点なのです。それこそ日常生活に潜む、身近な多様性です。私は、方言も共通語もそれぞれのよさや違いを楽しみ、尊重して使っていこうと思いました。

しかし、過去においては、アイヌの人々は国の同化政策のもと、アイヌ語を否定され奪われてきたといえます。また、79年前の沖縄戦では、共通語とかけ離れていることから沖縄の方言を使うことを禁止された過去があります。沖縄の人が生まれ育った方言を使うと敵のスパイとみなされ酷い目にあわされたこともあったそうです。アイヌの人も沖縄の人も、自分たちの精神とも言える歴史ある言葉を奪われることはどんなに辛かったことでしょう。今、戦時下にあるウクライナにおいても、ある特定の言葉を発音させることでロシアのスパイのあぶり出しが行われているそうです。まさに言葉による踏み絵です。言葉は、本来人と人をつなぐものであり生活そのものであると私は思います。もし、大分弁を話すことを禁止されたり、敵か味方かをより分けるために利用されたりしたら私は絶対に嫌です。多彩で多様な方言を大切にすることというのは、自分も相手も尊重して生きるSDGsに通じるのではないのでしょうか。

ところで、方言は、人をより親密にしてくれると思いませんか。私は以前、大分県内の小中高生と沖縄に研修に行く機会に恵まれました。全員大分県民にもかかわらず、最初はみんな敬語ばかり使うのです。それが打ち解けるにつれ、方言が飛び交いはじめたのです。

その一体感と開放感！方言は本音を話すにはぴったりなのです。方言を話してみると、短い言葉の中に、思わず膝を打つような的確さと、懐の深さを実感します。例えば「いっすんずり」一寸は約3センチですが、一寸ずつしか進めないような大渋滞の様子をととても鮮やかに表現しています。「むげねえ」は、かわいそうという意味ですが、そこに愛おしさや切なさが滲んでいます。「せっちい」は大分でも竹田や豊後大野の方だけで話されている方言で、「やるせないくらい嫌なんだけど、どこか許しを感じるような何とも言えないニュアンスが伝わってきます。語尾もコミカルで愛嬌たっぷり。方言は、そこで、その言葉を使って生きてきた先人たちの記憶であり、貴重な文化であり、受け継がれていくべき宝物だと思うのです。

けれども、祖父は「方言がのうなっちいきよる」方言が消えていっていると言っていました。確かに、私も知らない大分弁がたくさんあることがわかりました。なぜ、方言が失われていくのでしょうか？一つには、方言に触れる機会が減ったことです。テレビも授業も共通語が基本。タッチ一つで無言の買い物がスマートな価値観。生の対話よりSNS。極めつけは異世代の交流の喪失です。我が家もそうですが、おじいちゃんやおばあちゃんと同居ではない家庭が増え、地域の人と言葉をかわすことも少なくなったことで、方言を知る機会も失ってしまったのです。かけがえのない方言を忘れず、絶やさず、残していくにはどうしたらいいのでしょうか。

「つこうち、のうなるんが、お金じ、つかわんじ、のうなっちしもうんが、方言じゃ」使ってなくなるのはお金で、使わないとなくなってしまうのが方言だと祖母は言いました。本当にその通りだと思いませんか。ご当地言葉で接待してくれる地元の食堂やスーパーがあつたらいいのに。大分弁で授業する先生がいたら素敵じゃないかな。友だちとも、方言の味わい深さをもっと楽しめたなら。私は、子どもや孫の代、千年先にも大分弁が賑やかに飛び交う大分であってほしい。たくさんの美しい方言が残る日本であってほしい。そのために、私たちが方言をもっと楽しみ使っていきましょう。なあ、みんなじ、方言をようけえ、つこうちいこうえ！